

# 春休み1日子ども教室



【午前中の勉強の時間】



【午後のレクリエーション】

豊田公民館では、春休み期間中の豊田地域の小学生が、「勉強やレクリエーションなどを通じ、一日を有意義に過ごせる場所」として、3月20日に、「春休み1日子ども教室」を開催しました。

この教室は、春休み期間のほか、夏休み期間にも開催。今回で5回目となりますが、回を重ねるごとに参加する小学生の数も増え、今回の教室には、30人以上の小学生が参加しました。

教室の内容も、教師OBグループの先生や食育ボランティアの皆さん、レクリエーショングループの皆さんの「積極的な協力と創意工夫」により、回を重ねるごとに充実が図られており、主催者として大変うれしく、感謝する次第です。



中野市公民館報

2018  
No.158  
(通巻No.690)

5

発行  
中野市中央公民館

編集  
文化なかの編集委員会

〒383-0025  
中野市三好町一丁目4番27号  
TEL 0269-22-2691  
FAX 0269-26-2342

## 輝いています

### アイコ美術工芸社

「アイコ美術工芸社」は、彫刻家の相子恭平さん(28)とデザイナーで染色家の靖子さん(29)夫妻のアートユニット。群馬県出身の恭平さんと埼玉県出身の靖子さんは東京藝術大学大学院を修了後、結婚。移住を視野に創作活動の場を求めていたところ、縁があつて旅行で訪れた北信州に惹かれ、2015年春に中野市に移住。最初の約10ヶ月を草間で過ごした後、空き家だった岩井の木造平屋に引っ越し。自宅兼アトリエとして自ら改修作業をしながら二人でものづくりに励んでいる。



飯山駅、道の駅千曲川などで手ぬぐいを販売中。高橋まゆみ人形館内ギャラリー「雪あかりにて開催中の夫婦二人展「野をこえ山こえ展」は5/8日まで。

# こんにちは分館

## 新井分館

新井区は、平岡地区の南端にある戸数250戸ほどの集落で志賀高原、高社山、北信五岳を一望できる平坦で生活しやすい地形となっております。

今年の1月7日に子供たちを集め「まゆ玉づくり」を行い、

13日「どんど焼」を実施しました。昨年、新井神社の社殿が焼失し、少し寂しい「どんど焼」となりました。

分館では、そんな寂しさを吹き飛ばせるよう「区民親睦バスツアー」「子供納涼会」「ガーデニング」「敬老会」「文化祭」などを計画しており、区民の皆さんに元気を出していただけるよう頑張っております。

近年、新井区にはアパートが増え、転入されてくる人も多くなっております。



子どもたちは上手に「まゆ玉」を作りました

ます。転入された人も含め、区民全員が老若男女問わず、気軽に参加できる分館活動に心掛がけ、風通しの良い地域づくりの一助となるよう努力してまいります。

(分館長 藤沢由紀夫)

## ふるさとの歴史

新井は、中野扇状地扇央に位置している。村が生まれた頃から自村用の堰がなく、地下水位も低かったため水には恵まれていなかった。そのため農業は古くから畑作が中心だった。江戸時代初期の慶安五年(一六五二)、畑が約五十九町歩、水田が約三町歩、畑率は九五%である。

新井の人たちにとって、自村専用の堰は悲願だった。幕末から明治にかけて、志賀高原一之瀬に水源を求め、夜間瀬川に流入させる為替水によって松崎から新堰を開削しようと計画したが、明治九年に断念している。

こうした中で、新井の村人が土地柄を生かして始めたのがホウキモロコシを栽培し、業としてより収益性の高いエノコシを作ることである。ホウキモロコシはイネ科の一年草で、耐干性が強い。五月末から六月上

旬に種をまき、九月下旬から十月上旬に刈り取って干し、穂の実をとって籾を製作した。

この籾作りは江戸時代後期に始まり、明治七年(一八七四)には二〇〇本という記録がある。その後、冬季の副業に適していたので生産は増え、大正十二年(一九二三)には二万本を数えている。同年、新井籾製造販売組合が設立され、七十七人が加入した。

## 新井がさかんだった籾作り

昭和になると、ほとんどの農家が籾作りにならずに、十年代には五万本以上も生産、「新井籾」として好評だった。だが戦時中、作付統制令によって籾作りは制限された。

戦後、籾作りはかなり復活する。だが昭和四十年(一九六五)頃から冬季の副産物としてより収益性の高いエノコシを栽培する農家が増え、籾作りは衰退の一途をたどった。

(徳永 泰男)